

心の中の大きな塊

授業で「十七歳の心の闇」というのを聞いたとき、「あ、私と一緒にだ」と思いました。特に学校では普通に友達とふざけ合い笑いあって、すごく楽しいのに、家に帰って一人になったときに、なんだかやるせないという感情がでてきてしまいます。学校にいるときは自然と明るい自分、理想の自分を演じているのではないかと考え、悩む毎日を過ごしていたので、授業で出てきた子と自分を重ねて話を聞いていました。でも、話を聞いていく中で考え方を変えることができました。今まではずっと自分自身に不安感を持っていましたが、今私が抱えている悩みや苦しみは、本当は自分を成長させるために欠かせないもので、自分自身の大きな味方なのだと気付くことができたのです。ずっと心の中にあつた大きな塊がすっと消えていく感じがしました。河合先生の授業を受けることができて本当に良かったです。

(二年 女子)

自分と向き合う

「十七歳の心の闇」を授業のテーマにしていた時の内容は、まるで自分が今までに経験してきたことを先生が知っていたのかと不思議に思うくらい、当てはまっていた。先生の心の中にあつた黒いもののように、正体ははっきりと分からないけれど、確かに自分の心の中にも黒い何かがあつた。思い通りにできないことを思い通りにしようとして、自分一人で腹を立てる。これが悩みや不安になり、黒い何かになっていく。僕はそうだった。

しかし、高校生になって環境がガラッと変わるのを機に、自分を変えてみようとしたら、心の中の闇が少しずつ変わっていき、小さくなった。小さくなったのをきっかけに、心の中の闇と向き合ってみようと思ひ、いざ向き合ってみると、心の中の闇は、自分と自分を向き合わせしてくれる大切なものと分かった。心の中の闇が小さくなったのは、自分の力だけではない。確実に友人や家族がいたからこそだと思う。

(二年 男子)

○私が大谷高校に入ったのは、大谷でやらなければいけないことがあるから

失敗は成功へ導く大事な過程

私は公立高校に落ち、大谷高校に入った。もちろん合格できなかった不甲斐なさや悔いは大きかったが、私立高校に入学したことをコンプレックスだと思ったことは一度もない。だから、この最初の授業は、正直良く思っていなかった。思ってもいないことを書かされ、過去の失敗をえぐられているような気がしてならなかった。しかし回数が増すにつれて、先生の言いたいことが分かってきた。それは、種をまいたところで花が咲くということだ。

人は誰でも失敗する。しかしそこであきらめずに自分の与えられた道で努力すれば、いつかきつと花開くだろうと思った。私は目を背けていたんだ、失敗から逃げずにもう一度向き合わせてくれた。先生ありがとうございます。来年の春、笑っていられるような、そんな高校生活を大谷高校で送り、失敗は成功へ導く大事な過程だということを証明したいです。

(二年)